

検討会議事概要

件名	平成23年度 伊勢志摩国立公園近畿自然歩道等整備計画検討業務 第二回検討会
日時	平成24年2月3日(金) 13:30～15:30
場所	志摩市商工会議所多目的ホール
出席者	<p>有識者 石原 義剛 (海の博物館 館長) 小山 充 (NPO法人 南勢テクテク会) 川嶋 富門 (三重県ウォーキング協会 会長)</p> <p>関係行政機関 伊川 智之 (三重県環境森林部自然環境室 技師) 櫻井 真奈巳 (三重県観光局観光・交流室 主事 代理) 山本 敏広 (三重県伊勢農林水産商工環境事務所 森林・林業室 主査) 北村 幸治 (伊勢市産業観光部観光事業課 職員) 山下 正樹 (鳥羽市観光課 課長) 小泉 典也 (志摩市商工観光部観光戦略室 室長) 山本 高弘 (南伊勢町観光商工課 観光交流係 係長)</p> <p>関係団体 上紺屋 道明 (伊勢市観光協会 事務局員) 田畑 和誠 (志摩市観光協会 次長) 生賀 照央 (志摩自然学校 代表) 古田 儀之 (伊勢志摩国立公園パークボランティア連絡会 会長) 篠 康之 (東海旅客鉄道(株)三重支店運輸課 係長) 見並 喜久男 (近畿日本鉄道(株)名古屋輸送統括部運輸部事業課 主査) 田中 俊幸 (三重交通(株)志摩営業所 営業所長)</p>
環境省	中部地方環境事務所：曾宮統括自然保護企画官、野村課長、福田専門官、藤田自然保護官 村松AR
事務局	いであ(株)：神宮、青井、望月、松田
<p>(資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・出席者名簿及び座席表 ・検討の進め方 ・資料-1 基本方針の整理 ・資料-2 全体計画(案) ・資料-3 国が優先的に整備を実施すべき箇所の抽出 ・参考資料-1 利用施設・資源の確認 <p>議題</p> <p>①基本方針の検討</p> <p>②全体計画の検討</p> <p>③国が優先的に整備を実施すべき箇所の検討</p>	

議事概要

1. 基本方針の整理 (資料-1)

2. 全体計画の検討 (資料-2)

・ルートには石鏡～国崎がない。現地には旧国道が通っているし、鳥羽市としても重要な場所と考えているのでぜひ使って欲しい。(山下)

・スタート地点が伊勢神宮内宮となっているが、外宮スタートを考えてもらえないか。また、内宮から南伊勢町へ抜けるルート上には神宮林があるが、調整は図られているのか。

(上紺屋)

→外宮から内宮までは伊勢志摩国立公園外であるが、近畿自然歩道が通っている。神宮林について、本検討会のメンバーに神宮が入っていないため、今後調整を図っていく。(野村)

・昔の紀州の人は南伊勢町の切原を通ってお伊勢さんへ行っていた。切原から剣峠を抜けて内宮の鳥居までまっすぐ行く13.9kmの道で、昔は大八車で行った。要望があるのでテクテク会のイベントでも歩いている。昔からの貴重な道なので入れてもらえないだろうか。

(小山)

→歩いたことがあり、そのルートは把握している。(藤田)

・五ヶ所浦には龍仙山や牛草山があり、山頂からみる海岸線はまさに絶景である。このようなコースも念頭に置いて考えてほしい。

磯部から国府までの道について、自転車道が大王町まで整備されている。景観的には特筆すべきことはないが、これを利用するのも一つの方法ではないか。

相賀浦と道行竈について、局ヶ頂から道行竈に抜ける道がある。この道のほうが一直線に歩けるのではないか。(古田)

・的矢湾は古くより風待ちの港として知られている。渡鹿野島に行くと両岸に菅崎と安乗崎が見えてすばらしい景色である。そこで、的矢湾から船を使って移動するというのはどうか。(田畑)

→移動するための手段はあるか。(野村)

→渡鹿野島へは三ヶ所から渡船が出ている。的矢まで渡ることもできるし、安乗までもある。(田畑)

・今年五月に伊勢志摩ツーデーウォークがあり、そこでは賢島から先志摩をめぐるルートと的矢湾をめぐるルートがある。国府から上之郷へ行くルートもあるので参考にしてほしい。(川嶋)

・伊勢志摩は熊野古道のように目的地があって歩く場所ではない。だからあちこちを遊んで歩く道としてもよいのではないか。

資料-1 P.2 の目的について、①は良い。ただし②は少し混乱しているようなので、再整理が必要なのではないか。例えば、多島海は英虞湾と鳥羽を意味していると思うが、鳥羽の離島と英虞湾は性格的に全然違う。海女や漁業に関しても外海か内湾かで性格が異なるので、きちんと分けて、伊勢志摩国立公園の特色ある場所を歩いてもらうという整理が必要だと思う。

また、伊勢には神宮林があり、127 社のすばらしい森が広がっている。これらの森と海には密接な関係がある。漁業面からみると、内湾的な漁業を行っている場所と海女がいる外海がある。歴史面ではかつての海軍・海賊が大きな位置を占める。そうすると信仰を集めていた青峯山が重要な場所として浮かびあがってくる。すると伊勢からの矢までつながりが出てくるだろう。

太い一本の道に、多くの寄り道・脇道があっても良いのではないかと思う。(石原)

→資料-2 P.3 の表に資源や方針を整理していたが、もう少し各ルートのストーリーを丁寧に考えよというご意見をいただいたので、ルートの性格付けをはっきりさせたい。(野村)

Q. 一本化はどうか？問題は無いかな？(野村)

・志摩半島は、江戸時代以前には横の道がなく、舟運が主だった。だから(近畿自然歩道は)現代の新しい道として捉えればよい。熊野古道は世界遺産登録の際に便宜的に一本化したという経緯があるが、熊野古道は、本来は複数の道があり、一本化したことによる問題も出てきているので、ここは枝分かれていますよといいたいのではないかな。一部のルートで分岐していたり、複数のルートがあっても良いだろう。(石原)

→さまざまな歴史・背景がある土地なので、今後も検討を続けていきたい。(野村)

・全工程 240kmの道ということで、1本の道のほうがよいと思うが、単純計算で歩くのに5日かかる。そう考えると、スタート地点を分ける、いろいろなテーマを考えてエリア分けをしてそれらを繋ぐ、といったやりかたがあるのではないかな。(田畑)

→連続した道ならば宿泊が必要になると思うが、ルートが先か宿泊が先か考えている。(野村)

→その場合は宿泊を先に検討すべきだろう。(田畑)

3. 国が優先的に整備を実施すべき箇所の整理(資料-3)

・事業実施にあたっては、各地の地権者の調査や調整が必要である。県道や市道のように管理主体が明確な場所もあるが、環境省単独では把握できないので、協力していただきたい。また、各地に標識等を設置することになる。自然保護官も確認に回るが、全てを網羅

的には管理できないので、維持管理についても協力をお願いしたい。（野村）

・先ほど寄り道・脇道との話があった。南伊勢町には龍仙山という山があるが、今年の干支の「龍」の字が付くので、たくさん人が来てくれる。彼らの話を聞くと、朝早く地元を出発してツヅラト峠を登って浜島に宿泊する。翌朝すぐに登れるところということで龍仙山に登り、午後からお伊勢さんに行くという工程だった。

干支の名前がついた山があると人が来る。南伊勢町には牛草山も馬山もある。南伊勢町は山登りの需要が割合多いので、たとえば寄り道をして、このような山を登るルートがあってもよいのではないか。（小山）

・標識が壊れているのをみかけた場合に、スピードをもって対応してもらうためにはどこへ連絡すればよいのか。（田畑）

→今の近畿自然歩道については、基本的に三重県が整備しているので、所轄である伊勢農林水産商工環境事務所になる。

今後については要検討となるが、例えば異常を見かけた場合の連絡先を標識に記しておくなどの手法もあるかもしれない。（野村）

・山道がルートになる場合もあると思うが、その場合の管理の責任範囲はどこまでか。車道ならば責任主体が明確だが、今回のような場合にはどの程度まで想定されているのかを教えてほしい。（山本(敏)）

→公道はもちろん設置者になる。山道の場合は直轄で借り上げる形を想定している。ただし、私有地で地権者が不明な場所もある。その場合の標識設置には、土地所有者をはっきりさせるとかご協力をいただきたい。（野村）

・横山VCの木道で、はさみを手に雑草の管理をしている人がいた。そういう心ある人がいないと、密な維持管理ができないだろう。（田畑）

・万が一、山道で事故が起こった場合の責任についてはどう考えたらいいか。（山本(敏)）

→一義的には環境省に責任があると思う。もちろんケースバイケースなので、被害者の過失というケースや、逆に訴訟になるケースもでてくるだろう。（野村）

→造るのはよいが、その後の維持管理をきちんと決めておく必要がある。造ってそのままということも往々にしてある。予算措置など考えておくべきと思う。（山本(敏)）

→例えばテクテク会の方がよく歩かれている道ならば、そういう団体と連携するなど、場所ごとに考えていきたい。（野村）

・近畿自然歩道のルートの設定基準というものはあるか。（見並）

→特に基準は無い。ある意味どこでも通せるが、安全に歩いてもらうのが必要と考える。（野村）

・山のなかのルートならばトイレが必要になると思うが、それらの整備も検討されるのか。
(見並)

→本日の資料ではそこまで示しきれていない。もう少し検討が進み、ルートが明確になった段階で、距離等を勘案して決めたい。付帯施設としてトイレや休憩所などの整備を歩道の整備と一緒にすることも可能なので、そのあたりも考えたい。(野村)

・情報提供の場所は考えているか。(川嶋)

→道の駅のようなのは無理だが、鳥羽VCと横山VCをヘッドクォーターにすることを考えている。あとは道ごとにルートを示した総合案内板を設置したり、インターネットで地図を公開したりといったセルフガイド的な提供を想定している。(野村)

・整備計画に示された「自然にふれる」が、具体的になっていない。もう少し海にふれることを考えていく必要があるのではないか。先志摩は意外と海がないが、鳥羽のパールロードができる前に使われていた道は集落沿いを通り、時折海へ降りる道もある。こういう道はあまりお金をかけずに歩道として使用できると思うので、加えられれば加えてほしい。
(石原)

→鳥羽から石鏡、国崎をとおり伊雑浦へ抜ける道が良いだろう。海にふれるならば、少し人工的な場所であるがともやま公園もある。(古田)

4. その他

・第3回検討会は3月6日(火)13:30から志摩市商工会館で行う。

以上